焼津市立大井川東小学校いじめ防止基本方針

【PTA・地域との連携】

学校・家庭・地域が情報の共有 化を図れる連携を目指して、P TAの学年部を中心に、いじめ 防止の啓発に努める。また、民 生児童委員や学校評議委員等の 協力により、地域の情報を得て、 いじめ防止や発見に努める。

【校内研修等】

夏季休業中にスクールカウンセ ラーを講師に迎え、児童の事例 をもとにグループ研修と全体研 修を行う。

いじめ防止に関する資料の配布 や具体例を挙げることによって |職員会議や職員打合せで研修を 進める。

【月指す子ども像】

学校教育目標『ゆたかな心 たくましい力』にむけて、自尊心感情をもち他を思 |いやることのできる『ゆたかな心』と、規範意識をもって善悪の判断がつき、勇 気ある行動のできる『たくましいカ』をもった子の育成を目指す。

【いじめ対策委員会】

〈構成メンバー〉◎牛徒指導主任 校長 教頭 教務主任 養護教諭 学年主任 特別支援コーディネーター担当 スクールカウンセラー 心の教室相談員 スクールソーシャルワーカー

〈具体的な活動〉・情報の共有や取り組み方針の企画立案(教育課程の中に含め る)

- ・定期的な打合せ
- いじめ発生時の緊急会議の開催と具体的な対応協議

【生徒指導体制】

いじめに対しては、組織的な対応をする。該当保護者には、直接対話によって、 事実や該当児童のための指導方針を伝え、迅速で正確に対応する。いじめの内容 |によっては、PTAとの協議や保護者会の開催などの情報の開示や意見交換の機 会を設ける。

【関係機関等】

焼津市こども相談センター 焼津市青少年教育相談センター 焼津市立総合病院 心理科 焼津市適応指導教室 中央児童相談所

【教育相談体制】

便りによって、スクールカウン セラーの訪問日を知らせるとと もに担任等から保護者に懇談会 や家庭訪問の折、紹介する。 児童には心の教室相談員との相 談時間を知らせ、いつでも相談 できるよう相談室の開放をす る。

【未然防止の在り方】

|作りをしていく。

りする。

|全学級で4月にいじめは絶対に許さ|アンケート調査は、4・7・11・2月 を行う。

【早期発見の在り方】

|児童自らが考える場面をつくり、日|日常生活の中での観察を基本とし、相談|いじめを認知したら、迅速に事実を確|問題解決まで、被害者の心のケアや| |常的に自分からいじめをしない意識|や日記帳の活用、アンケート調査等によ|認するとともに、組織で対応するため|加害者の再犯防止に向けて、継続的| って児童の中から発見するだけでなく、「に「いじめ対策委員会」を立ち上げる。」に組織で対応していく。 |各学級で「人間関係プログラム」の|家庭訪問や懇談会、連絡帳の利用によっ|認知した際には、学校教育課に連絡を|指導支援体制においては、最も適切 |授業に取り組み、よりよい人間関係|て家庭から情報を得たり、PTAや地域|し、相談し指示を仰ぎ、連携を図る。|な者が最も適切な方法で対応する。 |をつくったり、自己有用感を高めた|との会合等によって、地域からも情報を|内容によっては、専門機関の助言をも|経過については、対策委員会を設け、 積極的に収集する。

|れない行為であることを教える授業|の4ステージごと行い、実態を把握し、 問題があれば速やかに対処する。また、 学級経営にも活用する。

【早期対応の在り方】

とめる。

|被害者の心のケアや加害者や周囲の児|期的に報告し、問題解決までの対応 |童への指導、保護者への連絡について |について検討していく。 |対策委員会で検討し、適切に対応する。

【継続支援の在り方】

加害者や被害者、保護者について定

焼津市大井川東小学校 いじめ防止対策年間計画

焼津市大井川東小学校 いじめ防止対策年間計画			
月	①組織・連携・点検・評価等	②未然防止	③早期発見・対応と継続的支援
4	・「いじめ対策委員会」によって、組織や基本的な考え方、役割分担、年間計画等を確認する。・学級懇談会やPTA総会で保護者に取り組みへの理解や協力を求める。 P	・授業「学校生活の約束」 ・全校一斉学級指導「いじめは 絶対にしない」を行い、いじめ は許さないという指導をする。 ・いじめアンケート調査①新し い環境の実態を把握する。 ・人間関係プログラムの授業①	・いじめアンケート調査①の結果から、学級の課題を知り、問
5	・「子どもを語る会」①を実施 し、職員の共通理解を図る。 D	・縦割り集団による運動会によって、異学年のよさを知りつながりをもつ。 ・人間関係プログラムの授業②	・家庭訪問によって情報収集をする。 ・日常的な観察を基盤にいじめの芽をつむようにする。
6	・なかよしのステージ評価アンケートを実施し次ステージの課題をもつ。 C	・いじめアンケート調査②・人間関係プログラムの授業③	・日常的な観察を基盤にいじめの芽をつむようにする。 ・いじめアンケート調査②の結果から、問題を把握し対応する。
7	・面談により保護者との連携を図る。 A	・人間関係プログラムの授業④ ・夏季休業前の学級指導や集会 で事前指導をする。	・学級懇談会による情報収集 ・日常的な観察を基盤にいじめ の芽をつむようにする。 ・面談で情報を収集する。
8	・「子どもを語る会」②(生徒 指導研修)を実施し、講師を招 き児童理解やいじめ問題の対応 について研修する。 D	・夏季休業中も児童との連絡をとり、状況を把握しておく。	・夏季休業中もいじめ問題について継続的に支援を行っていく。
9	・「いじめ対策委員会」で夏季 休業中の表れを洗い出す。前期 の取り組みをチェックし、後期 の取り組みの設定・修正する。 A	異学年との人間関係をつくる。	の芽をつむようにする。
10	・チャレンジのステージ評価アンケート実施し、次ステージの課題をもつ。 C		・日常的な観察を基盤にいじめの芽をつむようにする。 ・いじめアンケート調査③の結果から、問題を把握し対応する。
1 1	立て、実施する。 PD	験を通してや人間関係を築く。	・日常的な観察を基盤にいじめ の芽をつむようにする。 ・学級懇談会による情報収集
12	・かがやきのステージ評価アンケート実施し、次ステージの課題をもつ。 C	・総合学習「しずはま学習発表 会」で異学年の発表を見たり聴 いたりして他学年を理解する。	・日常的な観察を基盤にいじめ
1	・「いじめ対策委員会」の次年度の組織や計画を検討する。 P	から6年生とのつながりを感じる。 ・教育課程の中に位置づける。	
2	し、今年度の評価と来年度への課題を話し合う。 C		の芽をつむようにする。 ・いじめアンケート調査④の結 果から、問題を把握し対応する。
3	・ありがとうのステージ評価アンケートを実施し、来年度に生かす。 A	・次年度への引き継ぎ事項を確実に行う。	・来年度に引き継げるように情報をまとめておく。